

地域医療連携検討ワーキンググループ(作業部会)等開催状況

| 日時/会議種別 | 主な議題(「実態調査の実施」「作業部会設置」を除く) | 主な課題・問題点等(抜粋) |
|----------------------------------|---|---|
| H22.6.24(木) 地域医療連携検討ワーキンググループ | ・尾張西部医療圏における救急医療等の動向 | ・救命救急センターが指定され、患者搬送もよりスムーズになった |
| | ・病院間連携協議状況について | ・救急の空き病床の確保が課題である |
| | | ・一宮市で平日夜間診療を予定している(開始時期について現在調整中) |
| | | * (平成22年11月1日より開始) |
| 日時/会議種別 | 主な意見(要旨) | |
| H22.9.27(月) 救急医療部会 | <ul style="list-style-type: none"> ・救命救急センターが2病院指定されたが、受入には余裕がある。 ・救急2次輪番の当番日の増えた病院において救急患者の受入が増えている。 ・一宮市の休日急病診療所において、11月から平日夜間診療を実施する。(内科・小児科) ・稲沢市においては、休日急病診療所は市ではなく医師会が設置している。今のところ稲沢市ぐらいの規模では平日夜間の需要はそれほどないということで、医師会内部では実施について話題になっていない。 | |
| | H22.10.4(月) 周産期医療部会 | <ul style="list-style-type: none"> ・正常分娩については、地域でオーバーフローすることなく対応できている。 ・ハイリスク分娩についても地域で完結できている。母体も新生児も一宮市立市民病院で断ることなく受け入れている。 ・今年度、周産期搬送について、携帯電話のメール機能を活用したシステムが導入されたが、当圏域では従来どおり電話のみで十分対応可能である。 ・一宮市立市民病院においては、コロニーのNICU廃止により、小牧市周辺の医療機関から受入要請が増えているようだが、今のところスムーズに対応できているのではないかと。 ・一宮市立市民病院は助産施設(児童福祉法による児童福祉施設)に指定されていることもあり、役所からの紹介による他地域からの飛び込みが結構あるが、本来は各地域の周産期センターで対応すべきだと思う。 ・診療所で緊急の帝王切開があった場合、他の診療所産科医の応援を受けて実施するケースがあるが、産科医不足で開業医が少なくなると、帝王切開ができなくなり、病院に負担が掛かってしまう心配がある。 ・小児科については、2次救急病院に照会しても受け取ってもらえないケースがある。 ・小児科で2次輪番を組んでいるのは、名古屋など一部の地域だけであり、小児科医だけで2次の対応をするのは難しい。実際には一宮市立市民病院・大雄会病院で受け入れてもらうしかない。 ・小児救急については、1次、2次の救急の充実が必要であるが、1次については、一宮、稲沢の休日診療所での対応が望まれる。 |

病院間の連携協議状況

| | | |
|--|---|---|
| 圏域名 | 尾張西部医療圏 | |
| 病院名 | 一宮市立市民病院 | 稲沢市民病院 |
| 有識者会議報告書の記載内容 | ○一般救急医療機能の低下を防ぐ必要があるため、稲沢市民病院については、適正病床数への移行を図りつつ、将来的に一宮市立市民病院の機能強化を図った上で、一宮市立市民病院との医師の応援体制も含めた医療機能連携を進める必要がある。 | |
| 協議会設置 | 平成21年5月設置 | |
| 名称 | 一宮市立市民病院・稲沢市民病院医療連携運営委員会 | |
| 構成員 | 一宮市立市民病院:院長、副院長、診療部長 稲沢市民病院:院長、副院長、診療局長 | |
| 協議状況 | 平成21年度 | 平成22年度 |
| | 平成21年5月20日一宮市立市民病院と稲沢市民病院医療連携等実施要綱を定め、実務検討機関として医療連携ワーキンググループを設置。平成21年6月15日に一宮市立市民病院から稲沢市民病院へ小児科医を週2回半日派遣する覚書を締結し6月17日から運用開始。平成21年10月と平成22年3月に内科系(特に消化器内科、循環器内科)を中心とした医療連携について、両病院間で協議 | 日時:平成22年6月18日(金) 場所:一宮市立市民病院 協議内容:新稲沢市民病院基本構想策定にあたり、一宮市立市民病院との連携について基本構想に盛り込むことの了解及び両院にお医療連携の仕様(疾病別の機能連携)について協議 |
| 病院間連携状況 (再編統合 医師派遣 患者紹介 その他) | 平成21年度 | 平成22年度 |
| | 機能が不足する診療科の医師の派遣として、一宮市立市民病院から稲沢市民病院へ、平成21年6月から小児科医師を派遣(2名を週1回) 派遣日数 73日 派遣人数 73人 患者紹介数 一宮市民 ← 稲沢市民 316人 一宮市民 → 稲沢市民 37人 | 機能が不足する診療科の医師の派遣として、一宮市立市民病院から稲沢市民病院へ小児科医師を派遣(2名を週1回) 派遣日数64日 派遣人数64人(H22.12月末日現在) |

病院間の連携協議状況

| | | |
|------------------------------|---|--|
| 圏域名 | 尾張西部医療圏 | |
| 病院名 | 一宮市立市民病院 | 県立循環器呼吸器病センター |
| 有識者会議報告書の記載内容 | ○一宮市民病院は「心筋梗塞」における医療機能の充実が求められており、また、地域住民に対して、合併症治療におけるより質の高い医療提供を行うため、 県立循環器呼吸器病センター との統合も視野に入れつつ、連携の強化を図っていく必要がある。 | |
| 協議会設置 | 平成21年1月設置 | |
| 名称 | 尾張西部医療圏における循環器医療のあり方に関する協議会 | |
| 構成員 | (愛知県) 病院事業庁長、同次長、管理課長、循環器呼吸器病センター院長、副院長、事務長 (一宮市) 病院事業管理者、病院事業部長、同次長、市民病院長 (稲沢市) 市民病院長、市民病院事務長【第3回から参加】 | |
| 協議状況 | 平成21年度 | 平成22年度 |
| | <p>県立循環器呼吸器病センターが担ってきた医療機能を当医療圏で継続的に発揮するために一宮市立市民病院へ移行するという提案を受け、その実現への課題について3回に亘り協議を重ねた。課題としては次の4点が挙げられた。</p> <p>① 移行に当たっては医師のほか看護師・臨床工学技士等スタッフがチームとして移行する必要があること。</p> <p>② 結核・感染症医療についても一宮市立市民病院に引き継ぐ必要があること。</p> <p>③ チームとして移行するため医師以外のスタッフは県から一宮市へ派遣すること。</p> <p>④ 循環器呼吸器病センターの循環器医療を地域で受け止めるには、稲沢市民病院での役割も検討する必要があること。</p> <p>3回の協議により概ね課題の調整が付き、平成21年12月24日の第4回協議会で「愛知県循環器呼吸器病センターの医療機能の移行に関する覚書」を締結した。</p> <p>その内容は、</p> <p>1 医療機能</p> <p>① 循環器医療機能の移行のため一宮市立市民病院に病床(60床)、手術室等を確保する。稲沢市民病院では心臓カテーテル検査など循環器内科の診療のため15床程度の病床を確保する。</p> <p>② 結核、感染症医療機能の移行のため一宮市立市民病院に専用病床をそれぞれ18床、6床を整備する。</p> <p>③ 歯科口腔外科医療機能も一宮市立市民病院に移行する。</p> <p>2 医療従事者についての移行方法</p> <p>医師は採用、看護師・技師等は派遣</p> <p>3 移行時期</p> <p>平成22年10月1日とし、平成22年4月1日から同年9月30日までの期間を移行準備期間とする。上記覚書を締結したあと、循環器呼吸器病センターと一宮市立市民病院の実務的な協議(医療機能移行実務者会議)に移行した。実務者会議は、両病院の院長、副院長、看護部長、事務(局)長、課長等、県病院事業庁管理課長、市民病院事業部次長、課長等で構成され、平成22年1月13日、1月27日、2月10日、2月24日、3月24日の5回開催した。会議は医療機能の円滑な移行のための課題の協議や各分野職員間の協議の進行管理、調整等を目的とする。</p> | <p>平成21年度に引き続き実務者会議を次のとおり開催した。</p> <p>日時 平成22年4月28日(水)・平成22年5月26日(水)平成22年6月23日(水)・平成22年7月28日(水)平成22年8月25日(水) 計5回</p> <p>協議内容 移行準備期間に入ったことを受け、各分野における協議、準備状況等の確認のほか、入院患者の転院や医療機器の移設等についての協議内容等の確認を行い、医療機能の完全移行に備えた。</p> |
| 病院間連携状況 (再編統合医師派遣患者紹介その他) | 平成21年度 | 平成22年度 |
| | | <p>【一宮市立市民病院と循環器病センターとの連携】循環器呼吸器病センターの医療機能を一宮市立市民病院へ移行するため、医師を始め各医療スタッフを次のとおり、一宮市立市民病院へ移動させた。また、4月1日に診療業務にかかる相互支援協定を締結し、循環器分野での技術指導、緊急・臨時的な医療支援等を行っている。</p> <p>4月：医師3名(循環器内科、心臓血管外科、血管外科各1名)の採用 看護師10名と医療技師1名の派遣受入</p> <p>5月：医師1名(循環器内科)の採用 看護師16名の派遣受入</p> <p>10月：医師14名(循環器内科3名、心臓血管外科5名、血管外科3名、呼吸器科2名、口腔外科1名)の採用 看護師41名と医療技師8名及び事務員1名の派遣受入</p> <p>【稲沢市民病院と循環器呼吸器病センターとの連携】尾張西部医療圏の循環器内科診療部門の一部を稲沢市民病院が担うために、4月に稲沢市民病院は看護師1名の派遣を受入れた。 ※循環器呼吸器病センターは医療機能移行に伴い9月30日廃止</p> |